

# 選択的評価事項に係る評価

## 自己評価書

平成 30 年 6 月

長野高専高等専門学校

- ・ 自己点検・評価結果欄の各項目のチェック欄で「・・・していない」等にチェック（■）した場合は、自己点検・評価の根拠資料・説明等欄に、その理由等を記述すること。
- ・ （該当する選択肢にチェック■する。）と記載のある項目は、該当する箇所のみチェックを入れること。選択肢全てにチェックを入れる必要はない。
- ・ 自己点検・評価の根拠資料・説明等欄の記号は次のとおり。
  - ◇：明示している根拠資料については、該当資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。資料は、該当箇所がわかるように（ページや行の明示、下線や囲み線を引くなど）して、まとめて自己評価書「根拠資料編」として作成すること。資料を、ウェブサイト等で公表している場合には、ウェブサイト公表資料と付した上で、該当資料名、資料番号を記入し、そのリンク先を欄中に貼付すること。この場合は、自己評価書「根拠資料編」にリンクを貼ったウェブサイト公表資料の一覧を添付すること。
  - ◆：資料等を基に自己点検・評価の項目に係る状況を記述すること。（取組や活動の内容等の客観的事実について具体的に記述し、その状況についての分析結果をその結果を導いた理由とともに記述。）記述は、できるだけ簡潔にし、分量は、200 字以下を目安とすること。なお、「・・・場合は、」とあるものについては、該当する場合のみ記述すること。また、根拠資料の資料名、資料番号、自己評価書「根拠資料編」での掲載ページを記入すること。
- ・ 関係法令の略は次のとおり。

（法）学校教育法、（設）高等専門学校設置基準

I 高等専門学校の現況及び特徴

(1) 現況	
1. 高等専門学校名	独立行政法人国立高等専門学校機構 長野工業高等専門学校
2. 所在地	長野県長野市
3. 学科等の構成	準学士課程：機械工学科、電気電子工学科、電子制御工学科、電子情報工学科、環境都市工学科 専攻科課程：生産環境システム専攻、電気情報システム専攻
4. 認証評価以外の第三者評価等の状況	特例適用専攻科（専攻名：生産環境システム専攻、電気情報システム専攻） J A B E E 認定プログラム（専攻名：「産業システム工学」プログラム） その他（長野高専研究会）
5. 学生数及び教員数 （評価実施年度の5月1日現在）	学生数：1,072人 教員数：専任教員（校長含む）78人 助手数：0人
(2) 特徴	
<p>長野工業高等専門学校（以下「長野高専」あるいは「本校」という。）は、1963年に機械工学科及び電気工学科の2学科（3学級）、入学定員120名をもって発足した。その後、1967年に土木工学科、1989年には電子情報工学科を新設し、入学定員は200名に増加した。さらに、社会の動向と要請により、電子制御工学科への改組（1992年機械工学科2学級のうち1学級を分離改組）、環境都市工学科への改組（1994年、土木工学科を改組）及び電気電子工学科への名称変更（2005年）が認められた。2003年に専攻科が設置され、生産環境システム専攻（入学定員12名）、電気情報システム専攻（同8名）が加わり、全体で1,040名の定員規模となって現在に至っている。</p> <p>長野県は、全県的に電子関連、精密関連等の産業が盛んであり、また、地域間との交通連携及び防災インフラの整備も重要な産業となっている。一方、県内の工学技術に関する高等教育機関は少なく、本校は技術者教育を担う高等教育機関の一つとして重要な位置を占めている。このような立地条件を考慮して、本校は主に地域社会に対して有用な人材を送り出すことを目的に掲げている。</p> <p>本校は、創設以来一貫して「優れた技術者は、優れた人間でなければならない。」との教育理念を据え、学生を指導、教育してきた。人間教育を重視し、地域と連携しながら創造性・独創性のある人材を養成する教育方針は、産業界との結びつきをより活発にしている。この方針の下で卒業生は8,000名を超え、県内外の産業界で活躍している。</p> <p>上記の教育理念に沿って、本校では全国に先駆けて種々の取組みを展開してきた。これらのいくつかは、先進的な試みとして評価され、注目されている。主なものを以下に列記する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・混合学級制度（1974年～） 低学年における人間教育の優先、学科セクト意識からの脱却等を目的に、低学年（1・2年生）の各学科の人数を均等に配分して学級編成する制度。全国初の実施。</li> <li>・インターンシップ事業（1989年～） 4学年を対象にした就業前教育。全国的にも早期の着手といえる。夏季の2週間程度の実務訓練を教育課程に組み込む。本校の地域共同テクノセンターを中心とする4つの産学官連携事業のうちの一つである。現在は、低学年にも拡大し実施している。</li> <li>・情報化の促進（1990年～） 情報化の促進を目標にプロジェクトを新設。全国高専初の高速LANの敷設、マルチメディア室（AVC室）の新設、情報処理基礎教育専門教員による共通授業の実施、Webページの充実等を行っている。</li> <li>・創造性育成教育（1990年～） エンジニアデザイン能力を定義し、各学科・各専攻で科目を割り振りPBL型の授業を実施している。</li> </ul> <p>また、創造性育成のための課外活動として、エコランカー、ソーラーカー、サッカーロボット(ロボカップ)などの製作を行う部活動が活発で、各種大会、コンテストに積極的に参加して優勝および上位入賞するなど成果を上げている。特に、ロボカップ（ジュニア）大会においては、過去に3回の世界大会出場を果たしている。また、全国高専プログラミングコンテストでは過去7回の全国制覇を成し遂げ、高専ロボットコンテストにおいては、2007年以降の11年間</p>	

で関東甲信越地区大会優勝3回、全国大会出場8回を数え、全国大会の常連校となっている。

・障がいのある学生の受入れ（1995年～）

車椅子利用学生を受入れる際に、校内の全面的なバリアフリー化等を実現した。

・地域共同テクノセンターと産学交流（2000年～）

高専第1期のテクノセンター創設。地域企業との密着度が高く、活動は活発で、各種技術相談のほか社会人の学び直しの場として、多くの技術講習会やセミナーなどを開催し、全国トップクラスの実績をもつ。

・長期インターンシップ（2003年～）

専攻科1年次の1セメスタ（約14週間）で企業実習を経験する授業体系。この取組みは2004年に文部科学省の「現代的教育ニーズ取組支援プログラム」として採択された。高専単独では本校が初めてである。

・国際交流（2009年～）

社会のグローバル化とこれにともなう学生の教育環境を整備するため、海外大学等との交流協定、留学生の受入および派遣、国際会議、海外インターンシップなどを検討する組織として、2009年に国際化推進ワーキンググループを立上げ、2012年に国際化支援委員会を組織した。更に、これらの事業を発展させるため、2014年に国際交流センターを設置した。当センターでは、従来からの3年次編入学留学生の受入れのほか、タイ、シンガポール、香港などの短期留学生の受入れや関連企業の協力を得ながら本科生の海外インターンシップ、専攻科生の海外長期インターンシップも実施しており、国際化に対応できる技術者の養成を積極的、効率的に推し進めることが可能な体制を整備した。また、2017年7月にはタイ教育省との連携において、高専教育システムのタイ導入を展開するための「タイ協働センター」を設置して、その活動を開始している。

## II 目的

### ○本校における研究の目的

高等専門学校では、「高等専門学校設置基準」及び「独立行政法人国立高等専門学校機構法」において、「その教育内容を学術の進展に即応させるため、必要な研究が行われるように努める」ことと、「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行う」ことと規定されている。

本校における研究活動は、教員によって本校創立以来継続され、教育の質を保証する上での重要な手段となっている。あわせて、重要な知的情報の発生源でもあり、また、研究活動を通して地域に貢献することへの期待が大きい。そこで、上記のような社会的背景あるいは本校研究活動の活性化の状態を受けて、研究の主たる目的を以下のように明確化するものとする。

- (1) 地域と連携し、かつ地域と密着した研究活動を行う。
- (2) 産学官金の共同研究を推進する。
- (3) 研究活動を本校の教育の向上に反映させる。
- (4) 国際的、および学際的な研究を奨励する。
- (5) 社会の安定と人類の幸福、平和に資する研究を推進する。

(1)、(2)は、主として地域共同テクノセンターを軸に外部組織である長野高専技術振興会等との連携とコーディネータ、リサーチ・アドミニストレータの積極的な活用で行うものとし、あわせて、教員が個人的あるいはグループで独自に研究を行う活動も包含することとした。また、(3)(4)(5)で対象とするものは、基礎研究を含むすべての各教員の研究活動についての目的である。なお、(5)に関して、デュアルユースに関連するものは、執行会議で十分議論を行うこととした。

本校における研究活動は、地域社会の信頼と負託によって支えられている。不正行為は、その信頼と負託を大きく損なうものであり、それを起こした研究者が所属する機関ばかりではなく、我が国の科学技術振興体制を根底から揺るがすものである。このことを踏まえ、学術研究の信頼性と公正性を担保し、高等専門学校の学術研究業務に対する地域社会の信頼を確保しなければならない。研究に関わる本校教職員は、知的財産に関わる法的な規範、および公的研究費を使用する諸規定を誠実に履行する。

以上のような目的に沿った研究遂行を支援するための必要な業務を行う機関として「研究支援委員会」を設ける。

(出典：「長野工業高等専門学校における研究活動に関する基本方針」)

### ○本校における地域貢献活動等の目的

本校の教育・運営方針の二つ目に、「地域と連携し、地域に密着した学校運営を行う。また、地域から期待され、愛される学生を育成し、社会から要請されている高等教育機関としての使命を果たす。」としている。更に、独立行政法人国立高等専門学校機構法の第十二条第三項「機構以外の者から委託を受け、又はこれと共同して行う研究の実施その他の機構以外の者との連携による教育研究活動を行うこと。」並びに第十二条第四項「公開講座の開設その他の学生以外の者に対する学習の機会を提供すること。」に照らし、本校が保有する人的あるいは物的資源を活用して、地域社会に向けて共同研究・委託研究等の技術供与、在籍学生以外の者に対する教育サービス等を行っており、次の項目を基本方針として掲げている。

- (1) 技術相談、技術供与
- (2) 生涯学習への支援活動
- (3) 初中等教育機関等への支援及び低年齢層からの理工系教育の普及活動
- (4) 行政機関等との連携による協力、支援

上記(1)～(4)の項目について、本校では以下に示す具体的な活動を行っている。

- ① 地域共同テクノセンターを窓口とする技術相談、技術供与
- ② 社会人学び直しを目的とした講座、各種技術セミナー、技術研究会の実施
- ③ 科学イベントの開催及び県内で開催される各イベントへの協力
- ④ 公開講座及び地域の小中学校等への出前授業の実施

⑤ 長野市をはじめとする県内各自治体、各種団体等との包括協定または連携協定に基づく技術指導、委員会及び審議会等への委員派遣  
など

Ⅲ 選択的評価事項の自己評価等

選択的評価事項A 研究活動の状況

<p><b>評価の視点</b></p> <p>A-1 高等専門学校の研究活動の目的等に照らして、必要な研究体制及び支援体制が整備され、機能しており、研究活動の目的に沿った成果が得られていること。</p>	
<p>観点A-1-① 研究活動に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条第2項</p>
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>(1) 研究活動に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-①-(1)-1（選択 A-1）</p> <p>「長野工業高等専門学校における研究活動に関する基本方針」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/research/docs/basicpolicy.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/research/docs/basicpolicy.pdf</a></p>
<p>観点A-1-② 研究活動の目的等に照らして、研究体制及び支援体制が適切に整備され、機能しているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 観点A-1-①の研究活動に関する目的、基本方針、目標等を達成するための、実施体制、設備等を含む研究体制及び支援体制の整備状況・活動状況について分析すること。</p> <p>○ 実施体制の整備については、研究に携わる教員等の配置状況、センター等設置状況を示すこと。</p> <p>○ 研究活動状況については、共同研究等、他研究機関や地域社会との連携体制及びその機能状況等の具体例を示すこと。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(設)第2条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための実施体制を整備しているか。</p> <p>■整備している</p> <p>□整備していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇目的等ごとに、実施体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(1)-1（選択 A-2）</p> <p>「長野工業高等専門学校研究支援委員会規則」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/02-11.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/02-11.pdf</a></p> <p>資料 A-1-②-(1)-2（選択 A-4）</p> <p>「研究推進組織図」</p> <p>資料 A-1-②-(1)-3（選択 A-5）</p> <p>「知的財産戦略推進室、H30年度の活動計画」</p> <p>資料 A-1-②-(1)-4（選択 A-7）</p> <p>「長野工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/06-01.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/06-01.pdf</a></p> <p>資料 A-1-②-(1)-5（選択 A-9）</p> <p>「平成30年度 テクノセンター業務分担表」</p>

	<p>資料 A-1-②-(1)-6 (選択 A-11) 「長野工業高等専門学校専攻科運営委員会規則」 <a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/02-10.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/02-10.pdf</a></p> <p>資料 A-1-②-(1)-7 (選択 A-12) 「学習総まとめ科目：特別研究テーマ」</p> <p>資料 A-1-②-(1)-8 (選択 A-14) 「研究体制」 <a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/pdf/doc14-2.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/out/pdf/doc14-2.pdf</a></p> <p>「長野工業高等専門学校における研究活動に関する基本方針」(資料 A-1-①-(1)-1) に示した研究の目的を達成するため、研究支援委員会(資料 A-1-②-(1)-1) が中心となり、本校における研究推進体制(資料 A-1-②-(1)-2) を整えている。研究を進める上で必要となる知的財産権については、研究支援委員会内に知的財産戦略推進室を設置して、特許明細書の作成支援、本校が抱える知的財産の管理等を行っている(資料 A-1-②-(1)-3)。地域と連携した研究活動については、地域共同センターが窓口となり、地域連携事業を展開する中で企業等との共同研究につなげている(資料 A-1-②-(1)-4 及び資料 A-1-②-(1)-5)。</p> <p>また、教員の研究活動については、教員の専門分野により専攻科学生の特別研究を指導するため、教員の研究テーマと特別研究テーマの内容が一致しており、専攻科学生の研究指導が教員の研究活動推進に直結している(資料 A-1-②-(1)-6 及び資料 A-1-②-(1)-7)。本校の研究体制のまとめを資料 A-1-②-(1)-8 に示す。</p>
<p>(2) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための設備等を含む研究体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、研究体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(2)-1 (選択 A-16) 「コーディネータの設置」</p> <p>資料 A-1-②-(2)-2 (選択 A-17) 「長野高専研究設備」 <a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/seeds1/2017/8kiki2017.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/seeds1/2017/8kiki2017.pdf</a></p> <p>地域と連携した研究活動を促進するために、地域連携を担当するコーディネータ(特命教授)を地域共同テクノセンター等に配置している(資料 A-1-②-(2)-1、平成 30 年度は 7 名配置)。また、教員等が管理する研究設備については、適時更新を行いながら機器シーズ集(資料 A-1-②-(2)-2) に掲載し、これを公開して共同研究につなげている。</p>
<p>(3) 学校が設定した研究活動の目的等を達成するための支援体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇目的等ごとに、支援体制が整備されていることがわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(3)-1 (選択 A-56) 「平成 29 年度特別経費配分状況」</p> <p>資料 A-1-②-(3)-2 (選択 A-61) 「科研申請書添削指導」</p>

	<p>資料 A-1-②-(3)-3 (選択 A-62) 「長野工業高等専門学校技術振興会会則」 <a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/shinko/outline.html#rules">http://www.nagano-nct.ac.jp/shinko/outline.html#rules</a></p> <p>資料 A-1-②-(3)-4 (選択 A-63) 「長野高専と技術振興会との連携」</p> <p>資料 A-1-②-(3)-5 (選択 A-64) 「地域共同テクノセンターの運営支援」</p> <p>資料 A-1-②-(3)-6 (選択 A-65) 「H30 年度ミマキエンジニアリング包括協定に基づく研究テーマ及び配分額」</p> <p>資料 A-1-②-(3)-7 (選択 A-69) 「内地研究、在外研究教員一覧」</p> <p>本校の研究支援として、校長裁量経費から特別経費として研究費等の補助を行っているほか、外部資金獲得のため、毎年、科研費獲得実績のある教員及びコーディネータに依頼して、科研申請書の添削指導を添削希望者に対して実施している（資料 A-1-②-(3)-1 及び資料 A-1-②-(3)-2）。</p> <p>本校の教育研究を側面から支援する組織として、企業・外部団体等で構成される長野高専技術振興会があり、平成 30 年 6 月現在、その会員数は 332 となっており、本校と長野高専技術振興会の連携を深めるため産学交流室が設置されている（資料 A-1-②-(3)-3 及び資料 A-1-②-(3)-4）。さらに、地域共同テクノセンターの円滑な運営を支援する目的で、地域共同テクノセンター支援会議を設けている（資料 A-1-②-(3)-5）。</p> <p>平成 23 年 9 月に締結した本校と（株）ミマキエンジニアリングとの包括協定に基づき、教職員が提出した研究テーマに対して研究費の助成を行っている（資料 A-1-②-(3)-6）。</p> <p>教員研究を推進するために、学科等の状況が許す限り、内地研究、在外研究を本人の希望に沿って認めて派遣している。資料 A-1-②-(3)-7 は、平成 26 年度から 30 年度までの、内地研究及び在外研究の実績であり、合計 6 名の教員が外部機関で研究を行っている。</p>
<p>(4) (1)～(3)の体制の下、研究活動が十分に行われているか。</p> <p>■行われている</p> <p>□行われていない</p>	<p>◇研究活動の実施状況がわかる資料</p> <p>資料 A-1-②-(4)-1 (選択 A-70) 「教員研究テーマ一覧」</p> <p>資料 A-1-②-(4)-2 (選択 A-73) 「各学科等における研究活動」</p> <p>資料 A-1-②-(4)-3 (選択 A-74) 「平成 30 年度科学研究費助成事業採択状況」</p> <p>資料 A-1-②-(4)-1 は、平成 30 年度の年度当初における全教員の研究テーマ一覧である。これら研究の業績については、長野高専紀要に研究発表題目一覧としてまとめられ、各年度の各学科研究活動の状況（資料 A-1-②-(4)-2）、科研費採択状況（資料 A-1-②-(4)-3）等を研究支援委員会で把握して、研究活動の推進策を検討している。</p>

<p>観点A-1-③ 研究活動の目的等に沿った成果が得られているか。</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究活動の目的等に照らして、どの程度活動の成果があげられているか、目的の達成度について実績等を示すデータ等を提示すること。</li> <li>○ 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、目的に照らした研究の成果及び目的の達成度について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した研究活動の目的等に照らして、成果が得られているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 得られている</p> <p><input type="checkbox"/> 得られていない</p>	<p>◇目的等ごとに、活動の成果がわかる資料</p> <p>前出資料 A-1-②-(4)-2（選択 A-73）</p> <p>「各学科等における研究活動」</p> <p>資料 A-1-③-(1)-1（選択 A-79）</p> <p>「産学連携シーズ一覧」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/seeds1/2017/1kikai2017.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/seeds1/2017/1kikai2017.pdf</a></p> <p>資料 A-1-③-(1)-2（選択 A-92）</p> <p>「技術相談件数及び共同研究件数」</p> <p>資料 A-1-③-(1)-3（選択 A-93）</p> <p>「特許出願件数」</p> <p>資料 A-1-③-(1)-4（選択 A-94）</p> <p>「善光寺バレー研究成果報告会 2017」</p> <p>資料 A-1-③-(1)-5（選択 A-98）</p> <p>「年度別科学研究費応募採択状況」</p> <p>資料 A-1-③-(1)-6（選択 A-100）</p> <p>「本科学学生による学会発表件数」</p> <p>資料 A-1-③-(1)-7（選択 A-101）</p> <p>「専攻科学生による学会発表件数」</p> <p>資料 A-1-③-(1)-8（選択 A-102）</p> <p>「学生が関わる企業との共同研究件数」</p> <p>資料 A-1-③-(1)-9（選択 A-103）</p> <p>「年度別・学科別活動指数一覧」</p>
<p>観点A-1-④ 研究活動等の実施状況や問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p> <p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 組織の役割、人的規模・バランス、組織間の連携・意思決定プロセス・責任の明確化等がわかる資料を提示すること。</li> <li>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</li> <li>○ 研究活動等の実施状況や問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 満たしていると判断する</p> <p><input type="checkbox"/> 満たしていると判断しない</p>	

自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）	自己点検・評価の根拠資料・説明等欄
<p>(1) 観点A-1-③で把握した成果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している □整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料 前出資料 A-1-②-(1)-1（選択 A-2） 「長野工業高等専門学校研究支援委員会規則」 資料 A-1-④-(1)-1（選択 A-104） 「研究支援活動の改善」 資料 A-1-④-(1)-2（選択 A-106） 「研究支援委員会活動の改善提案」</p> <p>◆学校が設定した研究活動の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。 前出資料 A-1-②-(3)-1（選択 A-56） 「平成 29 年度特別経費配分状況」 前出資料 A-1-②-(3)-2（選択 A-61） 「科研申請書添削指導」 前出資料 A-1-②-(3)-6（選択 A-65） 「H30 年度ミマキエンジニアリング包括協定に基づく研究テーマ及び配分額」</p> <p>科研費の採択率向上のため科研費獲得実績のある教員及びコーディネータに依頼して、科研申請書の添削指導を添削希望者に対して実施し、改善を行った。</p> <p>校長及び学科長は、業務計画・長野高専紀要などより把握した問題点を考慮し、予算配分や校務分掌等を配慮することで学校全体または学科全体の研究活動の活性化に努めている。学内の人材育成面では、若手教員への研究支援、学内共同研究推進、企業等との共同研究の促進等のために、校長裁量経費や特別経費、ミマキエンジニアリングとの包括協定に基づく研究助成金等を充て、研究活動を推進している。また、教員の研究活動を支援するために、内地研究制度や在外研究制度を積極的に活用している。</p>

<p><b>A-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>
<p>平成 23 年 9 月に（株）ミマキエンジニアリングと締結した技術・研究開発を中心とした包括協定は、平成 21 年度から平成 23 年度までの 3 年間にわたり継続してきた「寄附研究部門・制御システム開発研究部門（ミマキエンジニアリング）」を発展させ、技術的な連携をさらに高めることを目的とし、現在も継続的に実施している。同社の出資による研究助成により、多くの教員が自身の研究を推進し、本校の研究活動に活性化につながっている。</p>

<p><b>選択的評価事項 A 目的の達成状況の判断</b></p>
<p><input type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている  <input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である</p>

**選択的評価事項A**

**優れた点**

・本校の研究推進体制及び支援体制は、研究支援委員会が中心となっているが、地域共同テクノセンターと長野高専技術振興会の果たす役割が大きい。これらの組織に係わる研究推進体制、支援体制のもとで、具体的な研究内容に踏み込んだ技術相談、更に発展した共同研究や受託研究に結びついた研究が数多くある。また、外部資金の獲得件数の増加、企業等との共同研究による研究成果数の増加、学内横断的研究組織による研究成果の増加、共同研究の成果による商品化事例の増加等、産学官連携事業で多くの成果をあげており、産学連携事業に係る研究の推進により、教員研究の活性化を図っている。

**改善を要する点**

特になし

選択的評価事項B 地域貢献活動等の状況

<p><b>評価の視点</b></p> <p><b>B-1 高等専門学校の地域貢献活動等に関する目的等に照らして、地域貢献活動が適切に行われ、活動の成果が認められていること。</b></p>	
<p>観点B-1-① 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等が適切に定められているか。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ なし。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 地域貢献活動等に関する目的、基本方針、目標等を適切に定めているか。</p> <p>■定めている</p> <p>□定めていない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇定めていることがわかる資料</p> <p>資料 B-1-①-(1)-1（選択 B-1）</p> <p>「教育・運営方針」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/phil/index.php">http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/phil/index.php</a></p>
<p>観点B-1-② 地域貢献活動等の目的等に照らして、活動が計画的に実施されているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <p>○ 実施体制について分析することは必須ではない。</p>	
<p>関係法令</p>	<p>(法)第107条 (設)第21条</p>
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する</p> <p>□満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する口欄をチェック■）</p> <p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等について、具体的な方針を策定しているか。</p> <p>■策定している</p> <p>□策定していない</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p> <p>◇具体的な方針が策定されていることがわかる資料</p> <p>資料 B-1-②-(1)-1（選択 B-2）</p> <p>「長野工業高等専門学校地域共同テクノセンター規則」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/06-01.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/06-01.pdf</a></p> <p>資料 B-1-②-(1)-2（選択 B-4）</p> <p>「長野工業高等専門学校広報企画室規則」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/02-15.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/guide/rule/docs/02-15.pdf</a></p> <p>資料 B-1-②-(1)-3（選択 B-6）</p> <p>「平成30年度地域共同テクノセンター事業」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/year1/h30jigyuu.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/year1/h30jigyuu.pdf</a></p> <p>資料 B-1-②-(1)-4（選択 B-13）</p> <p>「平成30年度地域共同テクノセンター年間行事日程」</p> <p><a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/year1/h30carendr.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/year1/h30carendr.pdf</a></p> <p>資料 B-1-②-(1)-5（選択 B-14）</p> <p>「長野高専 技術相談手続きの流れ」</p> <p>資料 B-1-②-(1)-6（選択 B-15）</p> <p>「平成30年度広報企画室活動計画」</p> <p>資料 B-1-②-(1)-7（選択 B-20）</p>

	<p>「サイエンス・ライブ（公開講座）の募集」  <a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/public/lecture/">http://www.nagano-nct.ac.jp/public/lecture/</a>                      資料 B-1-②-(1)-8（選択 B-21）                      「サイエンス・ツアー（出前授業）の募集」  <a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/public/class/index.php">http://www.nagano-nct.ac.jp/public/class/index.php</a></p> <p>本校の地域貢献活動は、地域からの技術相談や技術供与、地域企業等（主として技術振興会会員）を対象とした「社会人の学び直し」の場や新技術獲得の場を提供する技術セミナー、技術研究会等を取りまとめる地域共同テクノセンターの活動と、公開講座、出前授業、科学イベント等を取りまとめる広報企画室の活動の2つに大別される。それぞれの年間の活動方針については、前年度の反省事項を踏まえ、年度当初に審議の上、決定されて実施に移されている。</p>
<p>(2) (1)の方針に基づき計画的に実施しているか。  <input checked="" type="checkbox"/>実施している  <input type="checkbox"/>実施していない</p>	<p>◇実施状況がわかる資料                      前出資料 B-1-②-(1)-3（選択 B-6）                      「平成 30 年度地域共同テクノセンター事業」  <a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/year1/h30jigyou.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/year1/h30jigyou.pdf</a>                      前出資料 B-1-②-(1)-4（選択 B-13）                      「平成 30 年度地域共同テクノセンター年間行事日程」  <a href="http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/year1/h30carender.pdf">http://www.nagano-nct.ac.jp/nrtc71/year1/h30carender.pdf</a>                      前出資料 B-1-②-(1)-6（選択 B-15）                      「平成 30 年度広報企画室活動計画」                      資料 B-1-②-(2)-1（選択 B-22）                      「平成 29 年度地域共同テクノセンター活動のまとめ」                      資料 B-1-②-(2)-2（選択 B-29）                      「平成 29 年度広報企画室活動のまとめ」</p>
<p>観点B-1-③ 地域貢献活動等の実績や活動参加者等の満足度等から判断して、目的に沿った活動の成果が認められるか。</p>	
<p>【留意点】  <input type="checkbox"/> 目的が複数ある場合は、それぞれの目的ごとに、活動の成果がわかる資料を提示すること。</p>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。  <input checked="" type="checkbox"/>満たしていると判断する  <input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 学校が設定した地域貢献活動等の目的等に照らし、成果が認められるか。  <input checked="" type="checkbox"/>認められる  <input type="checkbox"/>認められない</p>	<p>◇活動の成果がわかる資料（活動別参加者数、参加者・利用者アンケート等）                      前出資料 B-1-①-(2)-1（選択 B-22）                      「平成 29 年度地域共同テクノセンター活動のまとめ」                      前出資料 B-1-①-(2)-2（選択 B-29）                      「平成 29 年度広報企画室活動のまとめ」                      資料 B-1-③-(1)-1（選択 B-36）                      「長野高专キッズサイエンス 2016 来場者アンケート集計</p>

	<p>結果」          資料 B-1-③-(1)-2 (選択 B-41)          「図書館講演会」          資料 B-1-③-(1)-3 (選択 B-42)          「連携協定一覧」          資料 B-1-③-(1)-4 (選択 B-43)          「年度別・学科別兼業一覧」          資料 B-1-③-(1)-5 (選択 B-44)          「長野市への協力」</p>
<p>観点 B-1-④ 地域貢献活動等に関する問題点を把握し、改善を図っていくための体制が整備され、機能しているか。</p>	
<p><b>【留意点】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 具体的な改善事例については、活動状況とともに効果や成果について示すこと。</li> <li>○ 地域貢献活動等に関する問題点を把握しているものの、現状では改善を要する状況にない場合には、問題が生じた際に対応できる体制の整備状況について資料を提示すること。</li> </ul>	
<p>観点の自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p> <p>以下の自己点検・評価結果を踏まえ、当該観点の内容を満たしているか。</p> <p>■満たしていると判断する  <input type="checkbox"/>満たしていると判断しない</p>	
<p>自己点検・評価結果欄（該当する□欄をチェック■）</p>	<p>自己点検・評価の根拠資料・説明等欄</p>
<p>(1) 観点 B-1-③で把握した結果を基に問題点等を把握し、それを改善に結び付けるための体制を整備しているか。</p> <p>■整備している  <input type="checkbox"/>整備していない</p>	<p>◇改善の体制がわかる資料          前出資料 B-1-②-(2)-2 (選択 B-29)          「平成 29 年度広報企画室活動のまとめ」          資料 B-1-④-(1)-1 (選択 B-54)          「H29 年度教育改善報告書」</p> <p>広報企画室の活動については、年度末に開催される広報企画室会議で、当該年度の活動における問題点等を検討し、次年度の活動計画に反映させている。広報企画室の活動は、本校の教育システムの実施事項の一つであるため、活動結果は教育改善委員会において別に検討され、改善が必要であると指摘された項目については広報企画室に提示され、次年度の活動計画の中で検討されている。</p> <p>なお、地域共同テクノセンターの活動については、技術振興会が前年度の実施状況から、その反省を踏まえて次年度の計画を策定している。</p> <p>◆学校が設定した地域貢献活動等の目的等の項目に対応させた具体的な改善事例があれば、具体的な内容について、資料を基に記述する。</p> <p>資料 B-1-④-(1)-2 (選択 B-96)          「キッズサイエンス継続に関する検討」          資料 B-1-④-(1)-3 (選択 B-97)          「キッズサイエンス事務局設置」          前出資料 B-1-②-(1)-6 (選択 B-15)          「平成 30 年度広報企画室活動計画」          前出資料 B-1-②-(1)-7 (選択 B-20)</p>

	<p>「サイエンス・ライブ（公開講座）の募集」 前出資料 B-1-②-(1)-8（選択 B-21） 「サイエンス・ツアー（出前授業）の募集」</p> <p>長野地域の小中学生を対象とした科学イベント「キッズサイエンス」は2007年の開始から2017年で11年目を教えた。その間、多くの来場者が体験教室等のテーマに参加して、地域の科学イベントとして定着してきた。しかし、その実施母体の任意団体であるキッズサイエンス実行委員会及び事務局の運営がボランティアで支えられているため運営の危機に陥っており、これを解決するため本校広報企画室を中心に検討し、事務局を本校内に2018年度に設置して「キッズサイエンス」を継続できる体制を作った。</p> <p>また、2017年度から公開講座及び出前授業の名称をそれぞれサイエンス・ライブ、サイエンス・ツアーに改めたほか、小中学校からの申込み増加を目的に、小中学校の学習指導要領に沿ったテーマの導入を図り、小中学校における理科を中心に、小中学校の教育を側面から支援している。</p>
<p><b>B-1 特記事項</b> この評価の視点の内容に関して、「観点」のみでは自己評価できない活動や取組における個性や特色、資料を参照する際に留意すべきこと等があれば、記入すること。</p>	
<p>特になし</p>	

<p><b>選択的評価事項B 目的の達成状況の判断</b></p>
<p><input checked="" type="checkbox"/> 目的の達成状況が非常に優れている  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が良好である  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況がおおむね良好である  <input type="checkbox"/> 目的の達成状況が不十分である</p>

<p><b>選択的評価事項B</b></p>
<p><b>優れた点</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本校の地域共同テクノセンターは、「国立高専機構長野高専と地域企業が共に」をキャッチフレーズに掲げ、本校の支援団体である長野高専技術振興会、長野県テクノ財団などの諸団体との共同事業として、毎年150回を超える各種技術セミナー、技術研究会等を開催し（H29年度総事業回数165回、技術セミナー等の実施回数171回、参加人数2,010名）、学び直しなどによる参加者のスキルアップにつなげている。また、技術相談（H29年度実績38件）も積極的に受け入れており、地域社会の発展に大いに貢献している。</li> <li>・出前授業は2002年から開始し、これまで長野県内の小中学校等に対して年間多数回実施しており（H29年度実施件数合計のべ48件、参加者総数のべ1,751名）、低年齢層の理工系教育の普及と啓発に貢献している。また、科学イベントについては、2007年から2015年まで松本地区で9年間実施してきた「長野高専スカイパーク科学館」が、教員負担と費用対効果により取り止めとなり、代替措置として「まつもと広域ものづくりフェア」への参加テーマを増やしている（平成29年度高専担当テーマ：11、参加人数：教員5名、補助学生19名）。同じく、長野地域で2007年より11年間開催してきた「キッズサイエンス」は地元に着定した科学イベントとなっており、毎回多数の親子連れが科学技術に関する体験テーマを楽しんでいる（例えば、平成28年11月3日に本校を会場として開催した「長野高専キッズサイエンス2016」のテーマ総数：43、参加者総数：2,031名）。</li> </ul> <p>以上のように、本校は地域社会と積極的に関わり、本校が有する人的・物的資源を生かして、これを地域社会に還元する仕組みが確立している。</p>

改善を要する点
特になし